

第5回 庄川扇状地水環境検討委員会

(庄川扇状地の地下水流動機構検討結果)

1 . 庄川扇状地地下水調査の概要	1-1
1.1 調査の基本方針と流れ	1-1
1.2 庄川扇状地水環境検討委員会の経緯	1-2
1.3 調査概要と調査進捗状況	1-12
2 . 現地調査結果(庄川扇状地の地下水現況)	2-1
2.1 地下水利用アンケート調査	2-1
2.2 同時流量観測	2-6
2.3 水理地質	2-23
2.4 地下水ポテンシャル	2-31
2.5 地下水位変動	2-59
3 . 地下水シミュレーション	3-1
3.1 地下水解析方針	3-1
3.2 地下水解析モデルの概要	3-2
3.3 地下水モデルの構築	3-3
3.4 モデルの検定	3-23
4 . 庄川の伏没機構について	4-1
4.1 飽和・不飽和モデルの構築	4-1
4.2 飽和・不飽和浸透モデルの検証	4-3
4.3 地下水涵養量の定量化	4-10
5 . 庄川扇状地の地下水流動機構	5-1
5.1 調査検討結果のまとめ	5-1
5.2 地下水保全・適正利用にむけて	5-3
5.3 今後の基本方針と調査計画	5-23

平成15年3月24日

国土交通省 富山工事事務所

1. 庄川扇状地地下水調査の概要

1.1 調査の基本方針と流れ

庄川扇状地地下水調査の基本方針は以下の通りである。また、調査は図 1.1-1に示す流れで進めるものである。

- ① 全体水循環系の把握：庄川並びに小矢部川流域の地下水と河川水及び灌漑水等地表水とは相互に不可分の関係にあると考えられるため、地表水、地下水を一体とした全体水循環系を念頭において、その循環機構の把握を目指す。
- ② 面的、三次元的な検討：庄川扇状地を中核とする砺波平野全体を視野に入れ、地下地質構造の解明を含む面的・三次元的な検討を行う。
- ③ モデル計算を基本とした検討：庄川扇状地の水循環を十分な精度で表現できる地下水流動モデルを構築し、それをを用いた検討を通して、(1)地下水流動機構の解明と、(2)地下水の保全・適正利用に係る基本事項について整理する。
- ④ 調査手法：調査は既往調査資料に基づいた資料解析を基本とするが、さらに必要不可欠な現地調査を状況に応じて実施する。

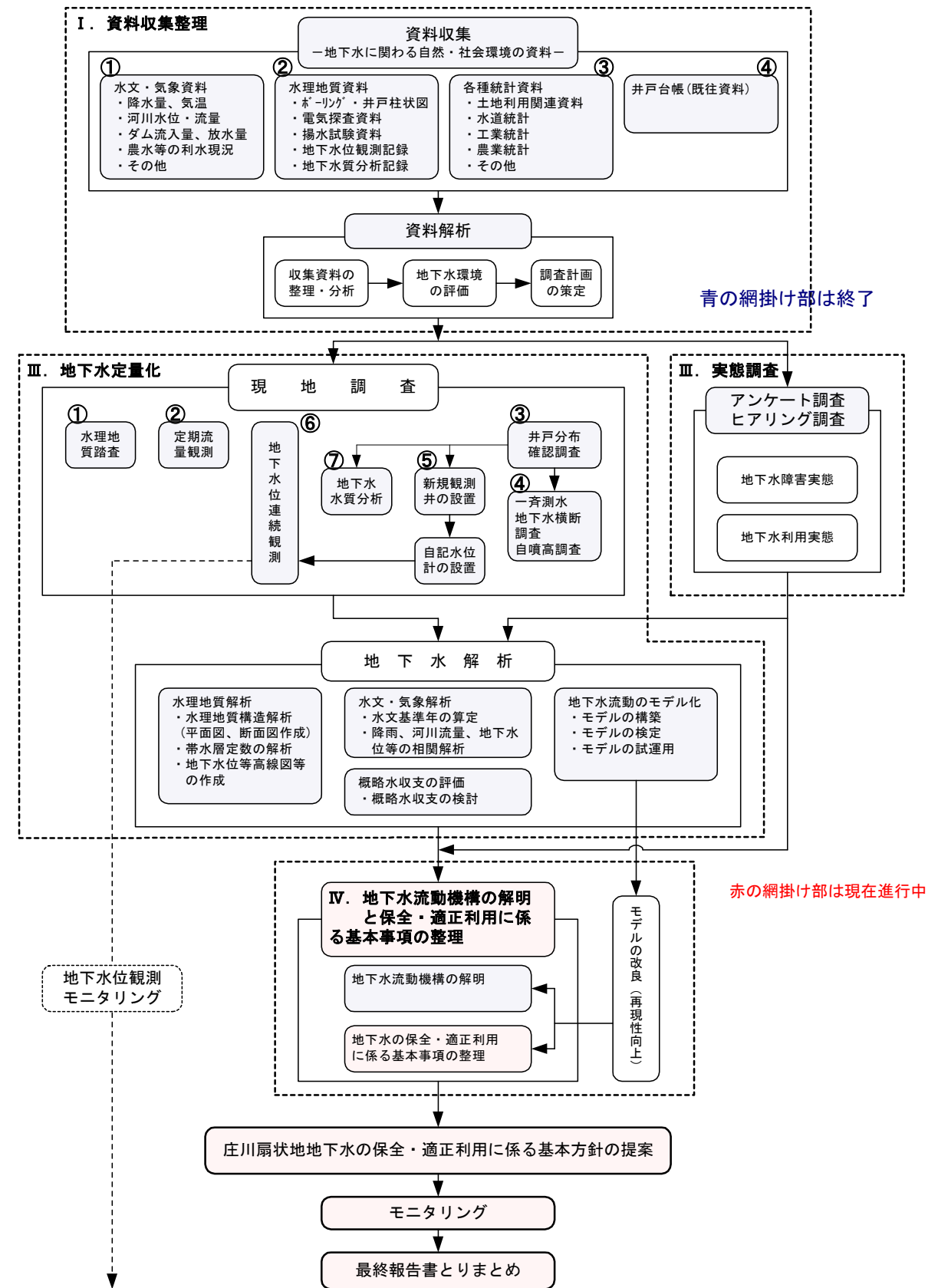


図 1.1-1 調査全体のフロー